大切な命を守るために皆さんの勇気が必要です

村に3台設置されたＡＥＤ。昨年の愛知万博でも会場に約１００個が設置され、４人の命を救っています。一人でも多くの「救える命」を助けようと、村や久慈管内で久慈消防署員、医師、看護師らの皆さんとＡＥＤを使った心肺蘇生法の普及活動を続ける、県立久慈病院循環器科の白戸隆洋先生にお話を伺いました。

岩手県立久慈病院　循環器科

科長　白戸（しろと）　隆洋（たかひろ）さん

病院に来るまでに半数が…

「本当に悔しいです。突然命を失う患者さんがあり、なかなか救えない」。一年間に久慈病院に救急車で運ばれる心肺停止患者さん75人のうち約50人が心疾患で、その多くが心筋梗塞（こうそく）症です。心筋梗塞症の患者さんの約半数は病院に来る前に心肺停止になります。そのうち８割は心室細動という不整脈です。もう少し早く心肺蘇生やＡＥＤで処置ができれば助かる命なんですが…。

１１９通報―心肺蘇生（そせい）―電気ショック（ＡＥＤ）―薬などの治療が迅（じん）速につながれば多くの命が救えます。とくにＡＥＤまでの時間が大切で、救急隊が到着してからでは手遅れなことが多く、そばにいる人が心肺蘇生やＡＥＤを行うことが必要なのです。ＡＥＤがもっと一般に普及すれば、もっと救える命があります

うれしいこともあります。以前、心筋梗塞発症後に心肺停止になった患者さんが、そばにいた同僚の心肺蘇生と救急救命士の現場での電気ショックの迅速なリレーで救命され、久慈病院に搬送。治療を行い元気に歩いて帰られました。

子どもが学校で亡くなる…

全国で年間約１００人の子どもが学校で亡くなっています。大切な子どもが学校で死ぬ。こんなことがあっていいのでしょうか。

岩手県心肺蘇生普及会議久慈支部では久慈管内のすべての学校で、小学５年生から高校３年生までに授業で反復してＡＥＤを教える５年計画を開始しました。子どもたちに体で「命の大切さ」を学んでもらいたいからです。そして、地域や家庭での普及や緊急時の実践を期待したいと思います。

平成16年７月、ＡＥＤが一般の人でも使用可能になったことから、たくさんの皆さんの協力で、講習会を開き、ＡＥＤの設置が各市町村で進められてきました。でも、地域は広く年齢層もさまざまです。これからも、もっと皆さんと一緒に講習したり、ＡＥＤの設置に協力したいと思っています。大切な命を守るために皆さんの勇気が必要なのです。そして、夢は「一家に１台」です。

皆さんができること

これからは高齢化社会や交通事故の増加などで、応急手当の重要性はさらに増していくように思います。そのためには、一人でも多くの皆さんが普通救命講習を繰り返し受けることが大切です。

今、日本では心臓発作による突然死が年間４～５万人と推定されています。交通事故の死亡者よりはるかに多い数字です。この大切な命の悲しい現状の中には、皆さんの救急救命によって、救える「命」があります。